

自分のための体験

最近テレビがつまらなくなってきました。テレビの内容がつまらなくなってきたのかもしれませんが、自分自身の考え方や好みも大きく変わってきたように感じています。特に年末年始の番組を眺めていると、見てみようという気持ちがどんどんなくなってきました。

芸能人を格付けする番組ではワインの味から値段の高低を判断させますが、私そのワインを飲めるわけではありません。ただ判断する様子を見ているだけです。またタレントが延々と料理する様子を見ているだけの番組も多いですね。これも自分たちが料理を作れるわけでも食べられるわけでもありません。

ニュースやドキュメンタリーなどメッセージ性の強いプログラムや、音楽、ドラマ、映画など、テレビが持つ良さを否定するつもりはありません。自然に関する仕事をしていながら、テレビ大好きで今までよく見てきました。それでも徐々にテレビから離れつつあります。



Nature Column (ネーチャーコラム)
自然解説員などで活躍する人々をリレーしています。

昨年末、息子と2人で森へ出かけました。スノーシューをはいて森を歩くと、いろいろな発見があります。ぐにやりと曲がって椅子のように座れる木、くるくると巻きつくツル、クリスマスツリーのようなトドマツ、こわごわとのぞき込む崖の上から見る小川、たくさんの動物たちの足跡、転んでもいたくない雪の柔らかさ、自分の足で歩く楽しさと辛さ…。

これはどんなにテレビを見ていても体験できない、自分のための体験です。野外では寒いことも疲れることもあります。転んだり不安になったりもします。けどそんなことすらも私たちにとって必要な経験なのではないでしょうか。家の中に閉じこもりがちな厳冬期ですが、一歩足を踏み出せば自分の体で感じる世界が待っています。テレビに飽きている自分に気づいたら、ぜひ森へ出かけることをお勧めします。

NPO (特定非営利活動) 法人ねおす
大雪山自然学校代表
小林 峻



本で知るふるさととの山

東川村の礦泉瀧って、どこの瀧？

表紙に朱筆で「永年保存」と書かれた書類が役場庁舎地下の書庫に大切に保管されています。本ではありませんので、「本で知るふるさととの山」のこの欄で書くのはどんなものだろうかと思いましたが、興味深い記録なので紹介します。



役場書庫に永年保存されている「陸地測量書類一拵」

あり、問題はありませんが、興味深いのは瀑布のところですよ。礦泉瀧(こうせんたき)。一名羽衣瀧ト称ス忠別川ノ支流アイシポツプ川ニアリ高サ百五十六尺(約47・3メートル)。

村は当時、鉱泉瀧と呼び、別名、羽衣の瀧とも呼ばれているという認識でした。1917

の束は、大正五年以降の「陸地測量書類一拵(かっしゅ)」です。その中に1916(大正5)年、陸地測量部測量手から村に問い合わせてきたはがきがとじてあります。内容は、東川村では「倉沼川」といつているが東旭川村は「クラロマイ川」と記載している、いったい、どちらが現今最も妥当とすべきものなのか。

村は、陸地測量部の書式にのっとりて村内の道路、山岳、河川、瀑布(ばくふ)、温泉の一覧表を作っています。川は倉沼川と書いて

「謎の迷宮 羽衣の瀧」として書きましたが、その時はまだ「陸地測量書類一拵」に礦泉瀧という記録があることを知りませんでした。では、いつ、どなたが羽衣の瀧と名付けたのか。相変わらず、分からなままです。

町史編さん専門員、西原義弘